イヌワシ生息地拡大・改善に向けた全体目標の概要（案）

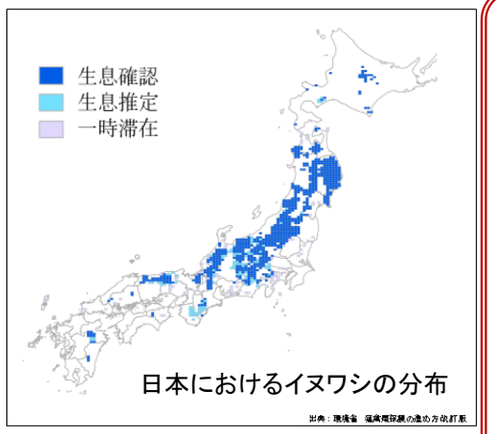
資料3－1

1. 背景

1996年　イヌワシ保護増殖事業計画

「イヌワシが自然状態で安定的に存続できる状態」を目標として設定

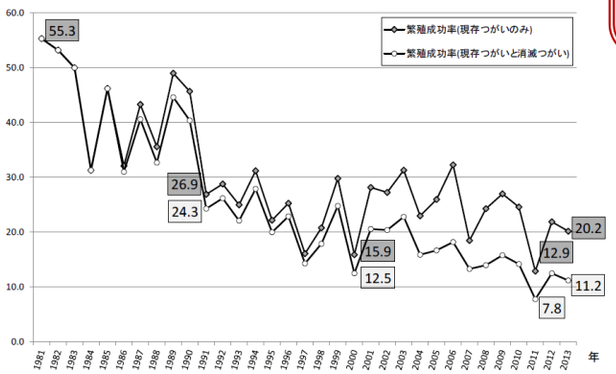
・餌動物や狩場の減少など
・個体数の減少や繁殖成功率の低下が継続



日本におけるイヌワシの分布

◆生息個体数
2004年：最大650羽と推定（環境省希少猛禽類調査）
2014年：約500羽と推定（日本イヌワシ研究会）
◆繁殖成功率
2015年：全国平均11%（日本イヌワシ研究会）

日本イヌワシの繁殖成功率の変化



引用：日本イヌワシ研究会報道発表資料（2015.3.3）

2015年　イヌワシ保護増殖事業マスタープラン

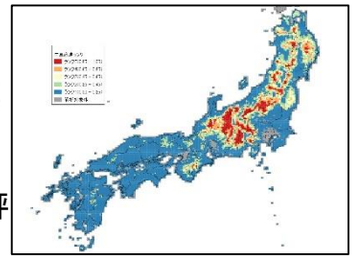
各種取組が事業計画の目標達成にどの程度寄与しているのか評価ができない

イヌワシの生息数増加につながる取組みを全国で推進するため、**目指すべき具体的な目標の設定が必要**

2. 検討方法

生息適地解析

現在のイヌワシ生息状況をもとに、生息環境として適した要素（平均標高、開放地面積、植林地以外の森林面積等）を抽出して、生息適地評価を実施



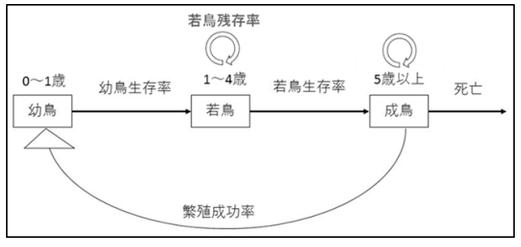
全国スケール
・ポテンシャルマップ作成
・生息適地の抽出

地域スケール
・つがい数と環境要因の関係を解析
・生息確率と繁殖成功率や面積との関係を解析

1つがいあたり必要な面積（森林・開放地）の算出

個体群存続可能性分析（PVA）

様々なデータ（個体数、年齢別死亡率、寿命、繁殖成功率）を用いて個体群の将来の存続確率をシミュレーション



➡初期つがい数を現状の174つがい、繁殖成功率を36.17%とした場合、100年後のつがい数の中央値は増加傾向

目標繁殖成功率の算出
安定的に存続できるつがい数の確認

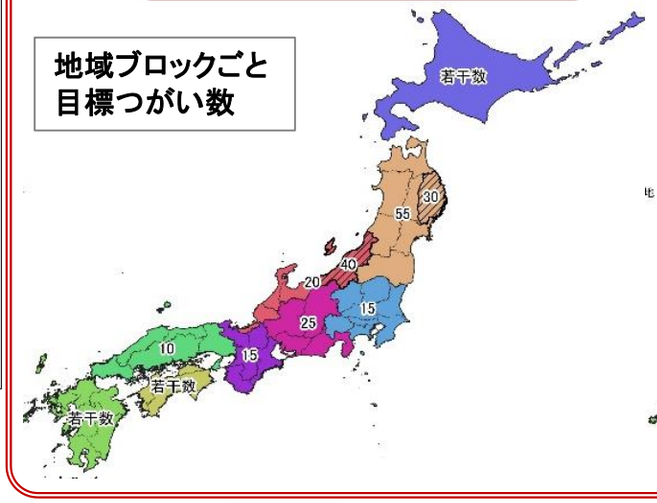
全国目標つがい数・繁殖成功率のブロック単位への割り振り

3. イヌワシ生息地拡大・改善に向けた全体目標

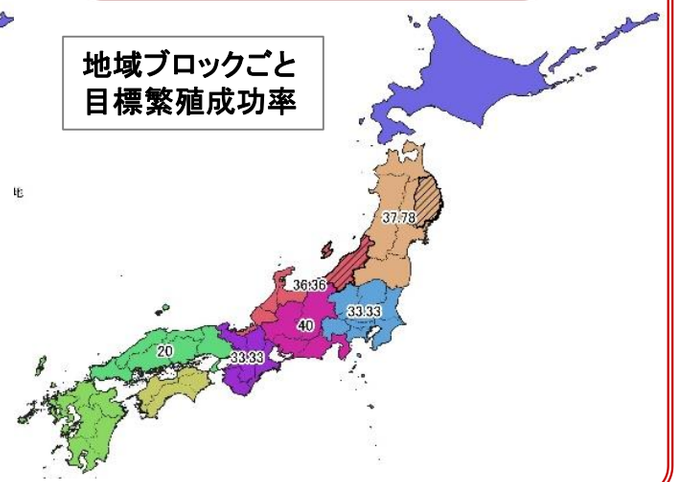
全国の目標つがい数
206

全国の目標繁殖成功率
36．17%

地域ブロックごと目標つがい数



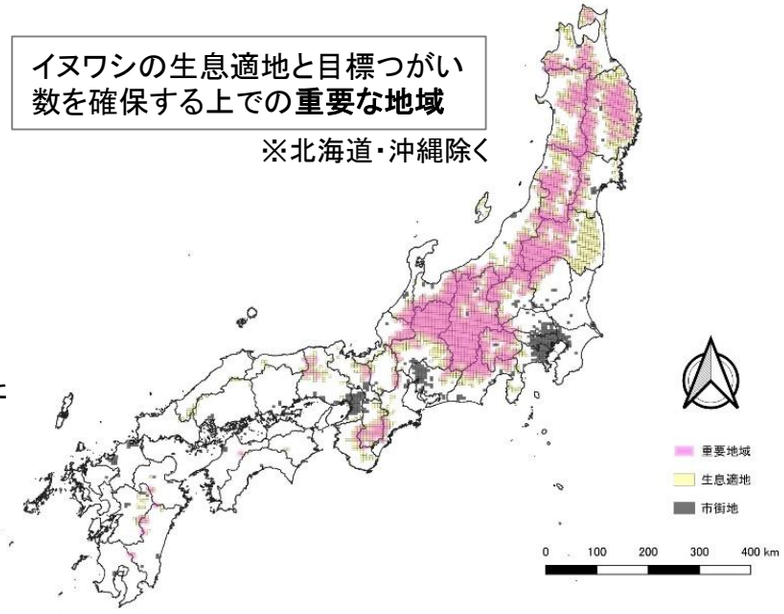
地域ブロックごと目標繁殖成功率



全体目標を達成するための取組を効果的に進めるツールとして、**重要地域を抽出・設定**

イヌワシの生息適地と目標つがい数を確保する上での**重要な地域**

※北海道・沖縄除く



＜抽出方法＞
・生息適地解析で生息確率が高かったメッシュ
・1つがいあたり必要な開放地面積及び広葉樹林面積を増やした場合に生息確率ランクが上がったメッシュ
・上記メッシュの周辺地域

4. 全体目標を踏まえた取組の展開

⇒　地域ごとの目標を達成するための必要な施策・取組を進めるとともに、関係機関に働きかけ

（例）・個体数の減少又は繁殖成功率の低下等の著しい地区における採餌環境の改善
・猛禽類保護の進め方や風力発電立地検討のためのセンシティビティマップの改定への活用
・野生復帰 / 生息域外保全の必要性・可能性の検討への活用
・地域の森林管理者や関係者等への普及啓発
・これらの取組を通した地域の生態系保全・生物多様性の向上